

利用者さんに聞きました

Aさんは1939(昭和14)年生まれ。週2回、まどかを利用しながら一人暮らしをしています。まだ酷暑が続いていた9月中旬、Aさんの来し方、まどかを利用して思うことなどを聞きました。

～大阪で空襲に遭い、広島へ疎開～

生まれは大阪。終戦間際の6歳のとき、空襲で広島県の府中町(現・府中市)に疎開したの。梅田駅(現・大阪駅)から見た景色はもう焼け野原で、缶カンの中から黒い人間の足みたいなのが出ていた。福山駅に着くとぼーっと暗くてね…。あの頃の生活ってね、押し入れ開けるとカボチャとか梨とか入っていて、お米なんて、おまわりさんに見つかったら大変だったの。



小学校時代のAさん

府中町立の小学校、中学校、県立の高校に通った。まどかで「お魚がおいしいところ、瀬戸内海の」と話したら、Hさん(まどか利用者)の実家と近いとわかって。Hさんは岡山、私は広島だけど、県境で最寄りの駅は一緒。「ほら、天満屋デパート、知ってるでしょう」って、話が盛り上がった。

特に運動はしていなかったけど、走るの速かったのよ。幅跳びも得意だった。姉が大阪にいたから大阪でお勤めした。その時お世話になった人が夫の妹さんで、それが縁で結婚して東京に出てきたの。新座に越してきたのは、30代の頃。初めて東久留米の駅に降りた時、なんて空気がいいんだろうって思った。

～新座に暮らして半世紀、年を重ねて～

50代か60代だったか、集会所で俳句サークルをやっていたので、始めました。でもコロナで大きく変わったからね。人が集まることがなくなって、そのうち腰が痛くなって、自転車で遠出ができなくなっちゃって、入院もして。それまでは元気で動いていたから、退院するとき「これからどうなるのかな」と心配だった。

私、前から介護保険制度とかには興味があったの。だから新聞でも雑誌でも記事を切り抜いて取ってあった。何かあると市の高齢者相談センター(地域包括支援センター)に相談にも行ってたのね。で、入退院がきっかけになって、高齢者相談センターからまどかに相談が行ったらしいの。それで退院のときにまどかのケアマネさんがきてくれたのね。

もう50年くらい新座に暮らしてるけど、近所の人も世代交代して、話せる人が一人しかいなくなってしまって。若い人たちは忙しくて、それどころじゃないのよ。生活していると、何かと書類を書いたり出したりしなきゃいけないでしょ。でも書けなくて困っていたのよ。腰を悪くしてからは、買い物も自分一人では歩いていけないもの。食べる物がなくなってくると心配でね。でも今は週2回、買い物に行ってます。まどかのスタッフが送り迎えしてくれる道すがら一緒に。まどかに行けば人に会える。話もできる。ありがたいと思う。家でじっとしていたら、ねえ。まどかがなかったら私の今はないわね。ああ、これからも生きていける。